

「建交労とうきょう」はいつでもみなさまからの記事や写真を待っています。

(メール) tohonbukenkouro@smile.odn.ne.jp
ホームページ
http://www.kenkouro.com/

建交労

のとうきょう

建交労東京都本部機関紙

発行所
全日本建設交通一般労働組合東京都本部
〒135-0048
江東区門前仲町1-20-3
東京建設自労会館7階
電話 03 (3820)8644(代)
fax 03 (3820)8646
編集発行人 松田 隆浩
1部15円組合費に含まれる(〒60円)

バス関連支部(京王新労組)東京都労働委員会 証人尋問

7月8日(木) バス関連支部

(京王新労組)が65歳定年後の再雇用を求め京王電鉄を相手に争っている東京都労働委員会で、証人尋問が行われた。組合側は、佐々木仁執行委員長、会社側は奥田康大前京王バス小金井代表取締役が、証言を行った。

長年、優良ドライバーとして京王バスに勤務し、60歳で定年を迎えた佐々木仁委員長を、会社は運転手として再雇用せず、バス車両清掃の業務に従事させた。さらに、深刻なバス運転手不足の中に、連合労組に加盟する多くの社員が70歳までバス運転手として再雇用されているにも関わらず、会社は、65歳を迎えた佐々木仁委員長を、雇い止めた。



京王電鉄本社



京王電鉄株主総会 京王プラザホテル八王子前宣伝行動

京王電鉄は、佐々木仁委員長をはじめ、建交労の組合員をただちにバス運転手として再雇用するべきた。

佐々木仁委員長をバス運転手として再雇用しない理由を、会社は次のように述べている。「社内規定による評価が低いからである。具体的には、会社が求める増務(残業)に応じなかったからである。また、バス車内で『止まります』『右に曲がります』等のアナウンスをしなかったからである。」

増務(残業)を断ってきたのは、朝5時から夜9時まで16時間もの連続運転をする運転手がいること、8時間のインターバルで、1時間かけて帰宅し、食事や身支度等を行い4時間足らずの睡眠で再

び1時間かけて出勤する者がいること、これら背景のもと、運転手の健康不良が原因でバス事故が起こっている実態があるからだ。また、バス車内で自動音声で流れる「止まります」「曲がります」等の案内を、運転に集中すべき運転手が、何故、再びアナウンスしなければならぬのか、その事が何故、評価の優先事項になるのかはなはだ疑問である。

佐々木仁委員長は、バス運転手として誰もが模範とすべきキャリアを残した。ハンドルを握ってから約32年間、1度も事故を起こさない無事故無違反である。それだけではない、乗客からのクレームは1度も無く、さらに無遅刻で過こした。この経歴に敬意を表し、警視庁などから幾度となく表彰されている。バス運転手不足は深刻さを増し、京王バスでは、任用社員や継承社員の定年を65歳から70歳に引き上げる事を検討。65歳で退職した運転手にわざわざ声をかけ、呼び戻すなど、運転手不足解消に四苦八苦している。佐々木仁委員長をはじめ、建交労の仲間をバス運転手として再雇用しない理由はみじんもない。

しかし会社は、新たに創設した再雇用社員制度こそ高齢者雇用安

定法の趣旨に沿った制度だと言いつち、時給1000円、週3日、生活保護以下の水準で、バス車両清掃の仕事をあてがった。超優良運転手を、運転手として再雇用しない会社が、どうして高齢者雇用安定法を語れよう。むしろ、法の悪用だと強く抗議したい。佐々木仁委員長こそ、利用者にとって、そして、京王電鉄にとっても、最も必要とされている人材に他ならない。

東京都労働委員会の証人尋問は、バス運転手を「営業職」と位置づけ、国民の安全・安心を犠牲に、サービスと利益を優先する京王電鉄の体質、そして、運転手を評価する評価制度そのものが、公共交通を担う企業として逸脱した中身である事を、明らかにした。

弁護団の質問に、佐々木仁委員長は「バス関連支部(京王新労組)は、兼ねてより、安全・安心のための主張をしてきました。バス運転手が守るべきは、自動でアナウンスされることを復唱する事ではありません。乗客、そしてバスの外の人、守るべきは、国民の命です。」と応えた。

京王電鉄は、佐々木仁委員長をはじめ、建交労の組合員をただちにバス運転手として再雇用するべきた。

【都本部 書記長 笹原 和樹】

建交労・京王新労組支援
共闘会議 京王電鉄株主
総会前 宣伝行動 開催!

京王新労組支援共闘会議は、6月29日、京王電鉄株主総会に際し、会場の京王プラザホテル八王子前で宣伝行動に取り組み、株主に対し「京王電鉄が行っている組合攻撃や不当労働行為を止めさせ、争議を解決して正常な労使関係を結ぶよう求める。それが株主にとっても有益だ。」と訴えました。

雨が降る中、当該支部の藤山書記長の司会で始まり、支援共闘からは主催者を代表して伊藤議長が株主への争議解決の必要性を訴えました。佐々木委員長は、争議の発端となったバス部門の分社化に触れ「分社化以後続けられている組合攻撃は許されぬ。安全を第一にもこの労働組合を攻撃することは言語道断だ。」と京王電鉄の利益優先体質を変える必要性を訴えました。その後、多摩川太鼓の力強い応援で、佐々木委員長を株主総会会場に送り込みました。

当該支部から江田副委員長が「公共交通の安全確保のためにも、引き続き頑張ります。」との決意表明があり、最後に、藤山書記長の団結カンパロウで締めくくりました。【バス関連支部(京王新労組)執行委員長 佐々木仁】

三多摩労連 第31回定期大会 開催

7月17日(土)三多摩労連の第31回定期大会が北多摩西教育会館で開催されました。三多摩労連は、JMITU東京西部地協、都教組多摩地協、東京土建多摩稲城支部、電機情報ユニオン、都庁職、民医労健生会、年金者組合東京、CU東京三多摩地協、福祉保育労、郵産労、私教連、全受労、都障教組、全国税三多摩、大学生協、東京統一労組武蔵野支部、東京西部一般労組、

建交労東京など、19の単産と、避け換気やアルコール消毒など対策を万全にした会場に仲間が集いました。開会挨拶をした芳賀議長は「三多摩労連は今年7月に結成30周年を迎えた。地域組織の状況を把握し、単産と地域の連携でより一層の組織強化をはかりたい。」と訴えました。杉本事務局長が、活動報告・活動方針を提案。三多摩メーデーや三多摩春闘共闘など、三多摩独自の活動報告がされた他、組織拡大における三つの近い(年齢・職場・職種)など「近い」を生かして対話する提起、京王新労組のたたかいへの支援などが確認され、決算・予算



北多摩西教育会館で開催されました

を含め、全ての議案が採択されました。幹事にはバス関連支部(京王新労組)佐々木仁委員長が信任されました。引き続き、建交労東京都本部は三多摩労連に結集します。

グローバル・ナースズ・ユナイテッド(GNU) 世界34カ国の看護師・医療従事者が表明

世界34カ国の看護師・医療従事者の組織でつくる「グローバル・ナースズ・ユナイテッド」は7月9日、東京オリンピック・パラリンピックの中止、延期を強く求める書簡を、菅首相と国際オリンピック委員会バツハ会長に送付した。医療従事者の代表として、日本国民、選手スタッフ、各国国民の健康と安全が脅かされるのは看過できないと主張している。共同署名を行った日本医労連が明らかにした。書簡は東京都医師会の大会中止を求める訴えや、日本医労連の医療

「新型コロナウイルスは崩壊を懸念する声明を引直し「日本の医療関係者は五輪の延期を率先して訴えている」と紹介している。多くの国でのワクチン接種率の低さや、接種率が高い国でも流行の激化により感染症対策の大幅な見直しを余儀なくされている現状を指摘。(連合通信・7・15)

「新型コロナウイルスは空気中に浮遊し、移動するエアロゾル(浮遊する微粒子)を介して感染することは科学的にも明らかだ」と指摘した。世界的な感染症の継続的な拡大が公衆衛生と安全に深刻な脅威をもたらす、開催国である日本の何百万人もの住民にリスクをもたらすとして、東京五輪の中止、延期を求めている。共同書簡の署名に参加したのは、オーストリア、ブラジル、カナダ、インド、イタリア、韓国など21カ国の看護師・医療従事者組織の代表。

自交総連「東京オリンピックのタクシー輸送方法に抗議」

タクシーやバスの乗務員らでつくる自交総連は7月12日、オリンピック関係者を一般タクシーで輸送する方式の見直しを求める声明を発表し、五輪組織委員会に抗議した。声明によると、オリンピック関係者がタクシーに乗る時だけ臨時ハイヤー車両として運行し、関係者の輸送が終われば通常

営業に戻って一般乗客を乗せるといふ運行形態が既に導入されている。これは海外から入国する五輪関係者を一般市民と接触させない「バブル方式」に、大穴を開けるものだと強く批判している。従来、五輪関係者の移動は専用バス、貸し切り車両だけに限るとされていたが開催直前になって急ぎ、通常営業の一般車両を転用することになった。

タクシー運転手は優先的なワクチン接種の対象ではなく、未接種の人が大半だといふ。声明は輸送する車両は一般タクシーと区別し、消毒対策の徹底やワクチン接種が済んだ者を担当運転手にすることなどを求めている。

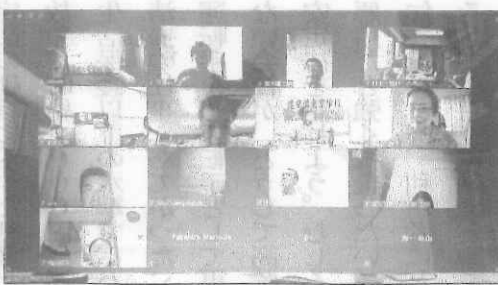
～新型コロナウイルスについての相談・情報は都本部までお寄せ下さい～
建交労東京都本部
☎03-3820-8644
✉tohonbukenkouro@smile.odn.ne.jp

第6期建交労東京学校 資本論講座

6月12日(土) 第3回開催

次回(第4回) 7月31日(土) 13時半

4月3日(土)に開校した第6期建交労東京学校が、6月12日(土)で第3回目の講義を数えました。神田支部の多大なご協力の下、リモートと併用で開催され、講師の江口健志先生(東京労働者学習協会常任理事・東京労働学校講師)の熱い講義に耳を傾けました。参加した組合員からは、わかりやすい、もっと詳しく知りたい、自分達の環境に当てはめる事が出来るだろうか、など、多くの感想が寄せられています。次回第4回は7月31日(土) 13時30分よりリモート併用で開催します。



リモートと併用で開催しました

組合掲示板

- 7月31日(土) 13時半～建交労東京学校資本論講座第4回 リモート開催
- 8月 4日(水) 18時半～東京都本部第24回定期大会第1回選挙管理委員会都本部7F会議室(門前仲町)
- 8月18日(水) 18時半～第2回選挙管理委員会 都本部7F会議室
- 8月21日(土) 17時～京王支援共闘会議 JR武蔵小金井駅宣伝行動

前回(第3回)の講義「格差・貧困はなぜ拡大するのか・貧困は自己責任か?」が時間内に完結しなかったため、次回(第4回)7月31日(土)は続編の講義です。第5回「資本主義の限界と未来社会の展望」は新たに追加した日程、9月25日(土) 13時30分から開催致します。途中参加でも構いません、是非、多くの組合員のご参加を宜しくお願いします。